

令和4年度

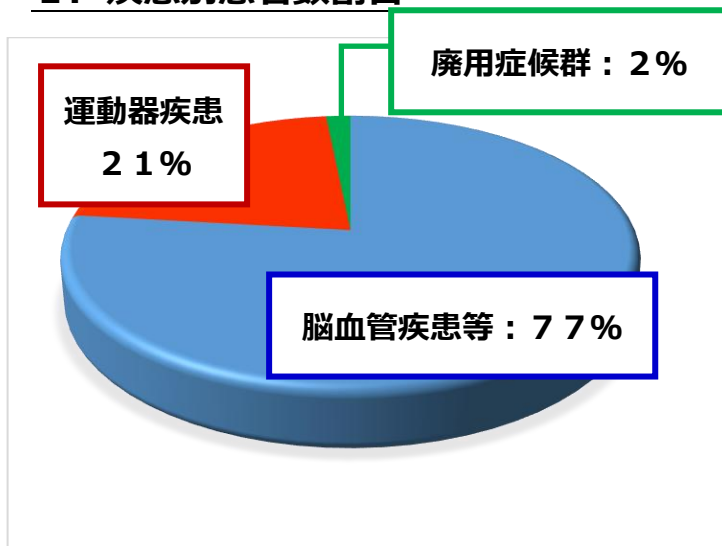
横浜なみきリハビリテーション病院 診療実績

(令和4年4月1日～令和5年3月31日に在院・退院した患者様の分析)

『回復期リハビリテーション病棟』

当病棟では、以下の急性発症した疾患等の急性期治療後に、集中的なリハビリ加療を行い、在宅復帰の支援に力を入れています。

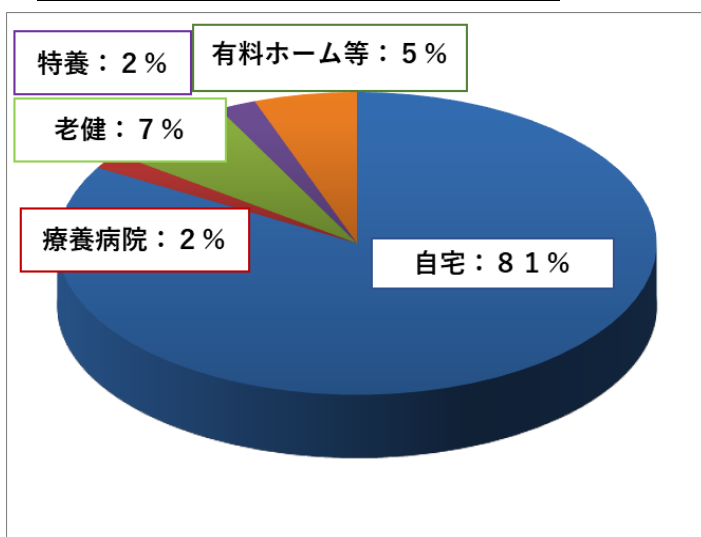
1. 疾患別患者数割合



・昨年度入院していた患者様の内訳になります。最も多い疾患が脳血管疾患の患者様になります。

・脳血管疾患では脳梗塞、脳出血、くも膜下出血の順に、運動器疾患では大腿骨骨折、腰椎および骨盤骨折、脊椎障害の順に多く占めております。

2. 退院先割合（在宅復帰率）



・患者様の退院先としては、自宅等の家庭への退院が約8割を占めており、次いで介護老人保健施設（老健）7%、社会福祉施設や有料老人ホーム等が5%となっております。

・在宅復帰率は年度を通して約9割超でした。

3. リハビリテーション平均提供単位数

疾患別リハビリ平均提供単位数	
脳血管疾患：	7.7単位
運動器疾患：	5.5単位
廃用症候群：	5.4単位

・左記は疾患別での1日当たりの平均提供単位数になります。リハビリ総提供単位数を入退院日や外泊日を含む総入院日数にて割って算出しています。

(1単位は20分間のリハビリを提供)

・脳血管疾患では1日最大9単位、運動器および廃用症候群は1日最大6単位のリハビリを患者様の状態に合わせて提供しています。

4. 回復期リハビリテーション実績指数（令和5年3月時点）

実績指数： 48.12

・実績指数とは、入院日数とその間の運動機能の向上を数値化した指標で、この点数が高いほど短い期間で身体機能が向上したことを意味します。

計算式
$$\frac{\text{各患者の（退棟時のFIM運動項目の得点－入棟時のFIM運動項目の得点）の総和}}{\text{各患者の（入棟から退棟までの日数÷患者の入棟時の状態に応じた算定上限日数）の総和}}$$

5. 重症患者受入率・回復率（令和5年3月時点）

重症患者受入率： 44.1%

重症患者回復率： 54.3%

・新規に入院された患者様全員を対象として、機能的自立度評価法（FIM）を用いて入院時と退院時の状態を評価しております。得点が低いほど生活自立度が高くなります。

・重症の状態とはこの評価点数が55点以下の状態を指し、その状態の方のうち、退院時の状態評価が16点以上改善した方を回復率として計上します。

※重症の状態であっても受け入れを行い、かつ改善を得る事が出来たことを意味します。

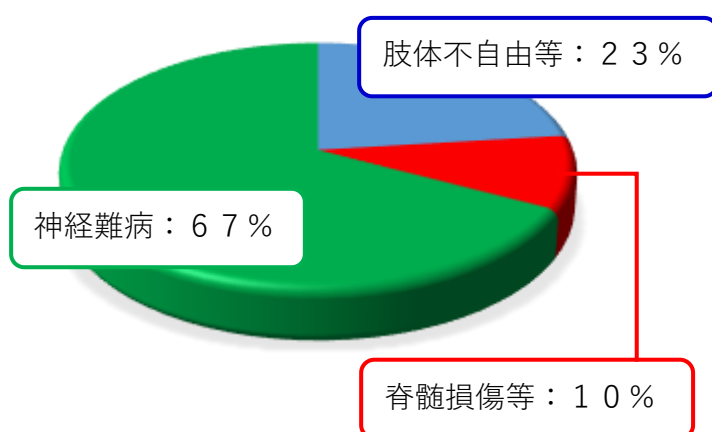
・最も質の高い基準の入院料1の要件は、受入率・回復率共に30%以上と定められています。

※令和4年4月より入院料1の要件、重症患者受入率は40%以上に変更

『障害者病棟』

当病棟は、主に重度の障害を持たれた方（肢体不自由者）や神経難病の患者様の入院加療を行っています。

疾患別患者数割合



・約 7 割の方が神経難病の患者様で、疾患としては、パーキンソン病の方が 9 割以上となっております。

・長期に入院する方以外にも、1 ～ 2 か月の短期間で集中してリハビリに取り組む方が常時数名おり、症状の進行緩和等を図っております。